

第1回常磐公園河川空間検討懇談会

- ・河川空間整備に至った流れ
- ・現況の確認

平成24年10月15日(月) 18:00～
旭川市職員会館 3階 6号室

旭川市土木部公園みどり課

計画の位置づけ

中心市街地活性化基本計画

中心市街地の空洞化や地盤沈下を防ぎ、**中心部への人の流れを再生**するなど中心市街地の活性化を推進する計画

文化芸術ゾーン

H20.11 ~ H21.12 文化芸術ゾーン形成検討会議にて整備方針の検討
~ 地域資源を活かした文化・芸術を基調とする魅力ある都心空間の形成 ~

7条緑道整備

公会堂改修

河川空間

常磐公園改修事業

常磐公園整備

河川空間
(緩傾斜化)

かわまちづくり支援制度

国土交通省が中心市街地の活性化などを目的に、賑わいのある河川空間の創出を目指す市町村と連携し、**まちづくりと一体となった河川整備を支援する制度**

申請



認定・支援

旭川市かわまちづくり計画

河川空間利用時の利便性向上を図り、河川空間を活用した観光都市の機能を高めることが目的

常磐公園改修事業基本計画

【常磐公園改修事業基本計画検討懇談会】 H23.7 ~

【基本計画の2本柱】

ゾーニング・動線計画

緑の計画

旭川市かわまちづくり計画

【個別計画】

【公園区域内】

・エントランス ・多目的広場
・園路整備 ・照明灯整備
・休憩施設

【専門家による別ステージ】

【河川空間】
・緩傾斜化

H24.8月策定
常磐公園改修事業基本計画
(河川空間ぬき)

常磐公園改修事業基本計画
(河川空間)

常磐公園改修事業基本計画

常磐公園河川空間検討懇談会

常磐公園改修事業基本計画のうち、河川空間については整備にあたり**樹木伐採を伴う**ため、慎重な議論が必要であり、**様々な分野の専門家**により整備内容を検討する

上位計画である「**文化芸術ゾーン**」の整備方針に基づくほか、常磐公園の**緑の計画**に示された緑のあり方を踏まえ、河川空間の整備手法について検討する

検討内容

・緩傾斜化の範囲(天端や階段幅、法尻の縮小、樹木の埋戻し方法の工夫、擁壁の設置など)

・駐車場の整備(取付道路の形状、河川敷の駐車場の位置や舗装材など)

計画策定までの流れ

スケジュール

H24.8月 「常磐公園改修事業基本計画」策定
(河川空間ぬき)

第1回
常磐公園河川空間
検討懇談会

10月15日

- ・ 河川空間整備に至った流れ
- ・ 現況の確認

第2回
常磐公園河川空間
検討懇談会

11月上旬

- ・ 保全すべき樹木の選定
- ・ 保全方法の検討

第3回
常磐公園河川空間
検討懇談会

11月下旬

- ・ 樹木保全による堤防形状の検討

第4回
常磐公園河川空間
検討懇談会

12月上旬

- ・ 河川空間整備(案)策定

パブリック
コメント

12月～H25.1月

「常磐公園河川空間整備」(案)

第5回
常磐公園河川空間
検討懇談会

2月上旬

- ・ 河川空間整備策定

「常磐公園改修事業基本計画」策定
(河川空間含む)

文化芸術ゾーン



文化芸術ゾーン河川区域の整備方針

< 河川区域整備概要 >

文化芸術ゾーンの中の位置づけ

文化芸術ゾーンへの誘導機能や文化芸術の発表の場となる市民に**親しまれる空間**の整備

整備の考え方

文化芸術ゾーンの**賑わい創出**や来訪者の**利便性向上**のための整備

一帯の現況や課題

- ・旭川冬まつりをはじめとして、年10回程度のイベントが開催されており、多くの市民に利用されているが、それ以外のときの利用が少ない
- ・日常的に散策、通勤、通学の動線として利用されている
- ・常磐公園と河川空間が**分断**され、一体性がない
- ・常磐公園は、旭川中心部の貴重なオープンスペースとして市民の憩いの場となっている一方で、石狩川の堤防付近は、樹木により暗い雰囲気となっている

主な整備内容

- ・イベントにも利用可能なオープンスペースの創出と駐車場整備
河川敷に約80台の**駐車場**を整備、**自然に近い**舗装材の使用、旭橋の**景観**を阻害しない
- ・緩傾斜化による常磐公園と石狩川の連続性確保
イベントなどに利用可能なオープンスペース、**安全・安心**な階段、**樹木に優しい**整備
- ・利便性の高い自転車・歩行者・自動車動線の確保
安全を確保する**動線の分離**、普通自動車スムーズに出入りできる動線、大型バスの旋回可能な動線



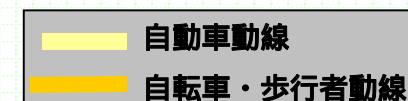
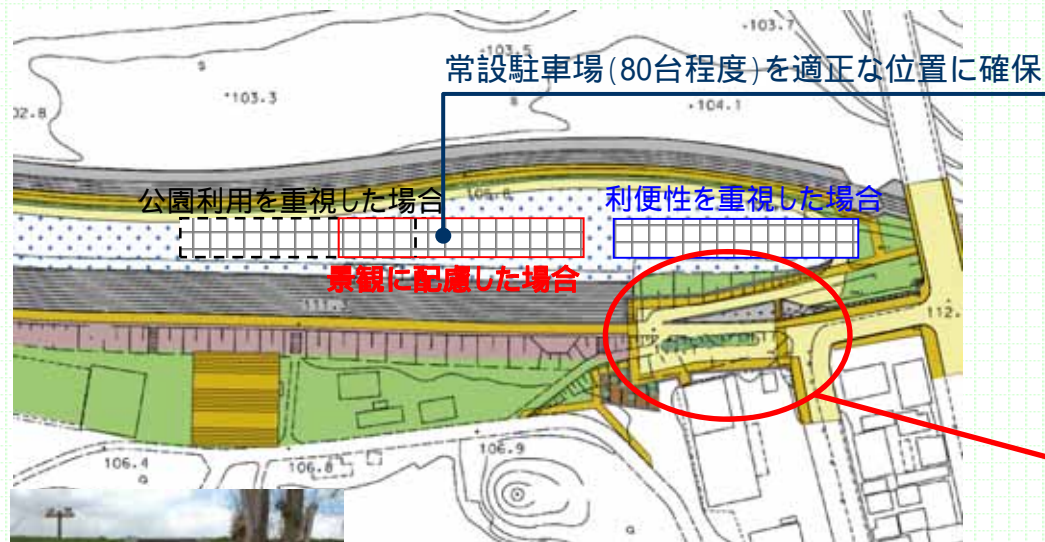
文化芸術ゾーン整備方針時のイメージ図

河川空間の整備方針

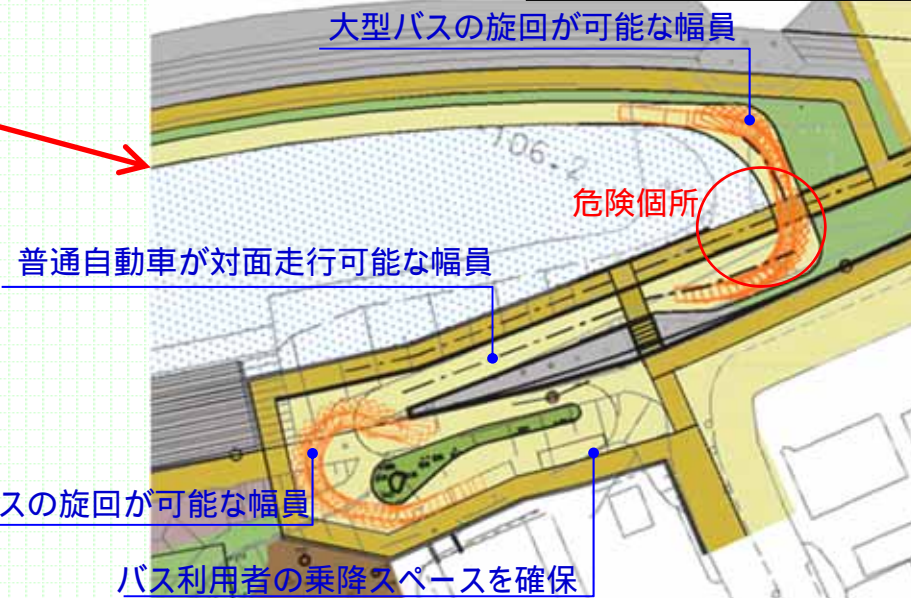
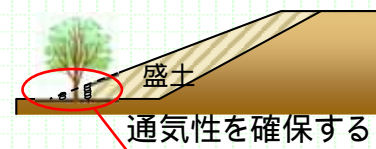
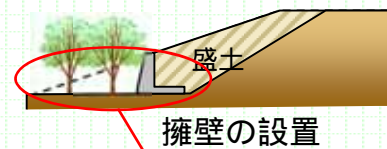
< 河川空間整備概要 >

主な整備内容

- ・イベントにも利用可能なオープンスペースの創出と駐車場整備
河川敷に約80台の**駐車場**を整備, **自然に近い**舗装材の使用, 旭橋の**景観**を阻害しない
- ・緩傾斜化による常磐公園と石狩川の連続性確保
イベントなどに利用可能なオープンスペース, **安全・安心**な階段, **樹木に優しい**整備
- ・利便性の高い自転車・歩行者・自動車動線の確保
安全を確保する**動線の分離**, 普通自動車スムーズに出入りできる動線, 大型バスの旋回可能な動線



樹木の保全方法例



河川空間の利用

<ソフト面の利用例>

水辺のオープンカフェ

河川空間と一体化した公園の整備をすることで「河川利用の特例措置」としてオープンカフェの設置等の民間事業者による営利事業が継続的に可能となる

社会実験

食ベマルシェ2011期間中に築堤上に移動式販売車により、有料で飲食類の提供を実施。出店者及び利用者の方にアンケートを行った。

出店者

- ・堤防上という営業場所は良く、イベント時以外も通行量が増えれば営業できる
- ・設備が整備されるとなお良い

利用者

- ・オープンカフェの賛同意見8割、利用したいという意見7割
- ・旭橋や石狩川が見える場所が良いという意見多数



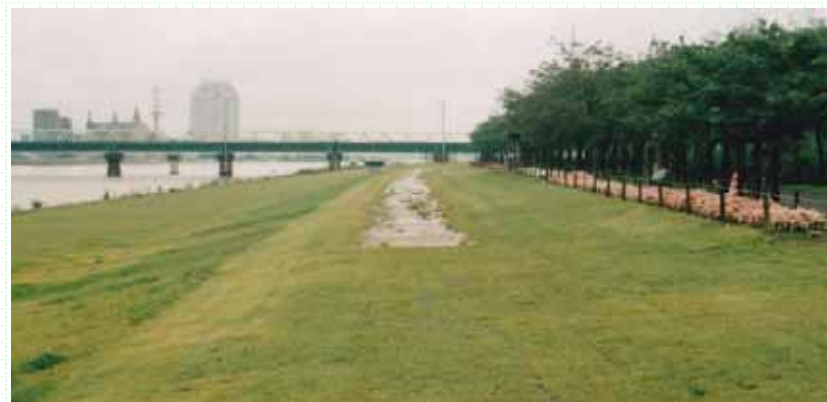
水辺のオープンカフェイメージ写真

<親水性の高い河川の利用状況>

海外の河川敷イメージ写真



日本の河川敷イメージ写真(信濃川)



常磐公園改修事業基本計画

< 緑の計画について >

緑の計画とは、公園の重要な要素である樹木について、そのあり方と方向性を示し、緑の計画的な更新や適切な維持管理を行っていくための計画である。

緑に求められる4つの観点

安全性 快適性 景観 生態系

樹木の選定と配置に関する8つの方針

旭川として誇れる**風景**を創出するため、**現況の樹種を土台**に北海道や旭川市周辺の環境に適した**多様な郷土樹種**とします。(景観・生態系)

四季を通じて楽しむことのできる花木、紅葉木、常緑樹など、開花・紅葉時期、さらには**冬季**にも配慮した樹種とします。(景観・生態系)

生きものや景観に配慮した**多様な樹種**とすると共に、老朽や衰退の早い樹種だけでなく、森林としての**寿命のバランス**が上手くとれるような樹種とします。(安全性・景観・生態系)

不要な密植を避け、日照や通風を良くし、植物が生長できる空間が確保できるような配置とします。(安全性・快適性)

利用状況に合わせて、**死角や暗がり**ができないような**防犯面に配慮**した配置とします。(安全性)

現況の樹種構成を生かしながら、樹種に合わせた**適正な樹木の間隔**で配置します。(安全性・快適性)

花粉、綿毛、日照障害など、**近隣への影響や迷惑**を与えないことを配慮した樹種や配置とします。(快適性)

枯れ枝の処理などが困難な高木は、**生態系や景観、管理面**を考慮し、樹林のアクセントとして配置します。(安全性、景観、生態系)

ゾーンにおける考え方 堤防付近の更新例

・最も本数の多いエゾヤマザクラの状態が悪いことや早生樹種で外来種のニセアカシアが多くを占めていることから、かつての**桜並木の復元**

・河川に近接した空間を生かし、**地理・地形的に適した郷土種**を中心に計画的更新による世代交代

現況の確認

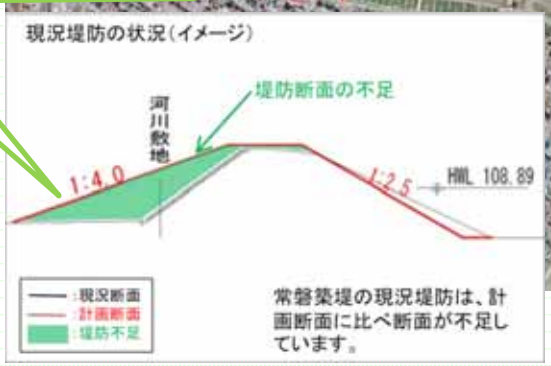
< 堤防の構造について >

現状の問題点

・石狩川と牛朱別川が合流し、水量が増えるポイントであるが、堤防と堤防の間が上下流に比べ狭くなっており、水の通りが悪く安全度が低くなっている

・現況の堤防は、計画断面に比べ断面が小さく洪水時の安全性が確保されていない

優先度は高くないが将来的に
取り組む必要がある



河川側に堤防を拡幅することは川を狭めるため、洪水を安全に流す点から困難

・現況の堤防には、樹木や切株が多く残されており、空洞化や水の浸透による弱体化の要因となる

堤防として治水上必要な断面の外側には植樹が可能である



現況の確認

< 立木調査について >

概要

平成23年度に、常磐公園内と公園に接する常磐築堤の樹木について、今後の維持管理のために森林相の現状把握を目的に個体調査を行った。調査では、胸高直径(地上から約130cmの位置での直径)を測定し、幹や枝の状態など気がついた点を記録し、多くの人たちが利用する**公園の維持管理面という視点**から判定を行った。

また、平成24年度に常磐公園内で発生した**倒木を受け**、平成23年度の調査において「**公園樹木として良好な状態にない**と判定した樹木」及び「**樹形が悪く、幹の腐れや空洞化が確認された樹木**」について、**再調査**を行った。

再調査の結果、倒木の恐れがあり、緊急性の高い樹木については、**樹木医による二次診断**を行った。

公園樹木のあり方

「安全」であること

倒木・落枝の危険がある個体は、危険がないよう処理する。特に樹高が高く枯れ枝の処理が困難な個体は、事故防止の安全対策が必要である

「健全」であること

衰退現象が顕著な木や病害木などは、個体自身が危険であるだけでなく、放置することで病気の蔓延のもととなり、周囲の樹木に影響を与え、倒木・落枝の原因となる

「自然形」であること

「自然形」とは、適切な生育空間や樹木密度で樹木が順調に育ったその樹木本来の樹形。自然形ではない樹木は、不格好な景觀面だけではなく、良好な生長をしている樹木と比べ、倒木・落枝の危険性が高くなる



自然形の樹木

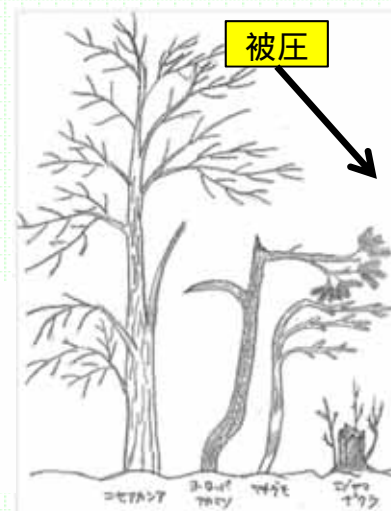


現況の確認

< 常磐築堤の樹木の状態について >

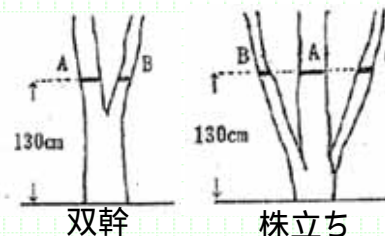
樹木の現況と考察

堤防付近の現況としては、最上層にニセアカシア・ドロノキの優勢木があり、その直下にヨーロッパアカマツの幹や枝が著しく変形したり枯れているもの、さらにその下に郷土樹種であるエゾヤマザクラ、イタヤカエデ、ヤチダモなどが**生長の阻害された樹形**となっている。これらは同時期に植えられたものと思われるが、初期生長の早いニセアカシアに被圧され、「**自然形**」といわれるのびのびと育った**本来の姿ではない樹形**となっている



判定結果一覧表

- ・胸高直径ごとに分類し、昨年までの**本数表記**から双幹や株立ちを1株と数える**株単位**で表記した(移植や伐採は主に株単位で行うため)
- ・双幹, 株立ちの場合は, 最大径の値を採用
- ・対象範囲をゾーン6-1及び6-2とする(常磐館裏～プールまで)



	胸高直径 (cm)					合計
	10未満	10~20	21~50	51~95	96以上	
生育状況が良好な樹木(移植可)	29株	35株	3株			67株
生育状況があまり良好でない樹木(移植不可)		10株	24株	10株	1株	45株
× 健康状態や生育環境から公園樹木として良好でない樹木	47株	19株	19株	3株		88株
× 平成25年度以降 2次診断対象樹木		7株	10株	5株		22株
× 平成24年度 2次診断対象樹木(緊急)		8株	7株	10株	2株	27株
合計	76株	79株	63株	28株	3株	249株

H23緩傾斜堤防整備(案)の影響範囲内の樹木を対象とした、立木調査のデータである(本数表記)



	胸高直径 (cm)				合計
	20以下	21~50	51~95	96以上	
移植	約60本	-	-	-	約60本
残置or伐採	約30本	約30本	約10本	3本	約70本
× 伐採	約100本	約50本	約20本	-	約170本
合計	約190本	約80本	約30本	3本	約300本

問題点

現状堤防上に多くの樹木が植生しており、生育状況は良好ではないが、現在の堤防断面では今後、**更新木を新たに植栽することができない。**
また、治水面からも堤防断面に樹木の根が混入していることは望ましくない。

常磐公園改修事業基本計画検討懇談会

< パブリックコメントの意見について >

概要

意見提出期間:平成24年6月18日～7月17日まで

意見提出者:86人

河川空間への意見要約

- ・河川と公園の自然を一体に考えて、生態系や緑地の連続性が大事
- ・樹木を大量伐採して緩斜面化することに反対する
- ・現在の景観や生態系を守ってほしい
- ・現在のコンクリートの河川敷を改良する必要がある

緑に対する意見要約

- ・今ある緑、樹木を手当てをするなどし、1本でも多く残せるよう大事にしてほしい
- ・危険木の伐採は必要だが、きちんと新しい樹木を育てて更新してほしい
- ・野鳥や昆虫などの生態に配慮してほしい
- ・緑を守り、人工的ではなく自然の風景を残してほしい
- ・今までの管理では不十分であり、市民と協力して、適切な維持管理を進めてほしい

その他の意見要約

- ・図書館通の拡幅と一時停車スペースの確保により、渋滞を解消する
- ・食の店舗と周辺環境のイメージの払拭が必要
- ・公園周辺の駐車場が不足している
- ・千鳥ヶ池の水質を改善して、人が集まるようにしてほしい
- ・ゾーンの連続性を大切にして、公園全体を見てゾーニングを考えることが必要
- ・年数回のイベント重視の整備はやめてほしい